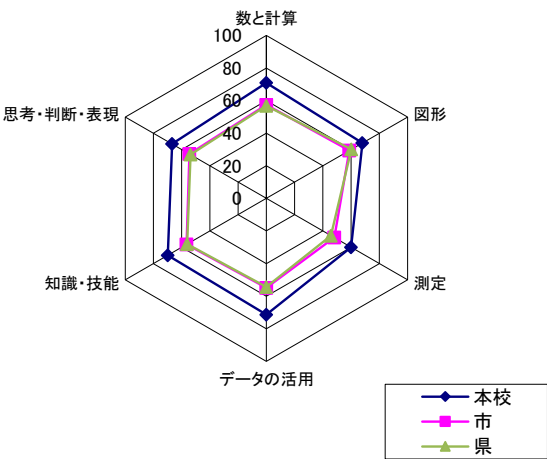


宇都宮市立桜小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.9	57.4	56.9
	図形	68.0	58.7	60.1
	測定	60.0	48.1	45.7
	データの活用	71.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	69.9	56.6	56.2
	思考・判断・表現	66.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○同分母の分数のひき算について、計算の仕方を説明する問題では市の平均正答率を26.2ポイント、県の平均正答率を25.6ポイント上回った。 ○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では市の平均正答率を25.2ポイント、県の平均正答率を24.2ポイント上回った。	・問題の答えを導くための説明では、穴埋めから、自力で書くことができるように、スモールステップで指導していく。 ・数直線では、めもりの見落としなどのミスを減らし、正確な解答を導き出せるよう指導していく。
図形	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○箱の横の長さから球の半径を求める問題では市の平均正答率を17.5ポイント、県の平均正答率を17.4ポイント上回った。 ○正三角形を作図する問題では市の平均正答率を12.5ポイント、県の平均正答率を10.2ポイント上回った。	・図や表を用いたり、既習事項を生かしたりしながら、問題を自力で解決できるように、スモールステップで指導していく。 ・コンパスを使う問題では、習熟が不十分な児童がいるため、コンパスの使い方を例示してから学習課題に取り組ませることを繰り返すことにより、作図の仕方の習熟を図る。
測定	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○時間が経過する前の時刻を求める問題では市の平均正答率を14.8ポイント、県の平均正答率を16.0ポイント上回った。 ○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では市の平均正答率を14.9ポイント、県の平均正答率を20.5ポイント上回った。	・時刻と時間の概念の習熟をより定着させるため、具体物操作を通して視覚的に捉えさせたり、日常の具体的な場面を例示したりして、実感的に捉えさせる指導を行っていく。 ・発展的な問題を用意し、応用的な問題にも対応できるように、指導していく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ問題では市の平均正答率を19.9ポイント、県の平均正答率を19.3ポイント上回った。 ○目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では市の平均正答率を16.6ポイント、県の平均正答率を17.4ポイント上回った。	・棒グラフの基本的な読み取りに関しては、算数だけではなく、他の教科においても、数値を読み取ったり、変化の傾向を捉えたりしながら学習課題に取り組ませるなど、棒グラフやその他のグラフに触れる機会を大切に扱うようにし、グラフに対する習熟を図っていく。